

平成26年度 精度管理調査報告

日本医師会/日臨技/広島県医師会サーベイ

検査科精度管理担当副技師長 楢本 健

当検査センターでは、均質で精度の高い検査が維持できるよう毎年積極的に精度管理に参加しております。ご利用いただいております先生方に、診断や治療の際に「安心、信頼」してお使いいただける検査データをお届けできるよう日々努めております。

昨年度参加しました外部精度管理調査の結果が出揃いましたので、日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、広島県医師会が主催する精度管理調査結果について、以下にその結果をご報告させていただきます。

今後も先生方に信頼される検査データをお返しできるよう、引き続き検査精度の維持向上に努めてまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いたします。

第48回 日本医師会 臨床検査精度管理調査	平成26年度 日臨技 臨床検査精度管理調査	第42回 広島県 臨床検査精度管理調査
99.7	99.5	100.0(満点)
3,209施設参加	3,853施設参加	165施設参加

▼過去の調査結果

年度	日本医師会	日本臨床衛生 検査技師会(日臨技)	広島県医師会
平成25	99.8	100.0(満点)	100.0(満点)
24	99.0	100.0(満点)	99.1
23	99.8	100.0(満点)	99.1
22	100.0(満点)	100.0(満点)	100.0(満点)

■日臨技精度保証施設認証制度：

当検査センターは「精度保証認定施設」として登録されています。(右写真参照)

この認定条件として、上記外部精度管理に参加し、評価基準を満たすことや検査標準化の実践に伴う内部精度管理の資料提出、精度管理責任者の教育証明書の提出などが必須となります。



■精度管理に関する各部署(形態部門)の取り組みのご紹介

形態部門は、検査特性として検査技師の主観が入りやすいため、外部精度管理は当然として、日々の内部精度管理が非常に重要となってまいります。技師間差をなくし正確なデータを先生方にお届けするべく行っている取り組みを一部ご紹介させていただきます。

○細菌係

細菌係は、検査に必要な培地作製から鏡検、細菌培養同定検査、感受性検査までを行っています。用手検査が主流な部署のため、内部精度管理が重要となります。

正しい検査が行えるように、培地作製ではその都度、無菌試験を行い、標準菌株を用いることにより生化学的性状が正しく反応しているかの品質管理を行っております。細菌鏡検では、定期的に標本を作り検査技師全員で確認を行い、個人差のない結果をお返しできるように内部管理しております。また、稀な細菌を検出した際はディスカッションし、スキル向上に努めています。同定検査では、3類感染症検出時などは検査技師2人によるダブルチェックで確認を行っており、感受性検査では、標準菌株を用い菌液濃度の調整を行い、MIC値や阻止円直径が基準範囲内に入っているかどうかを毎日確認しています。

細菌検査は結果をお返しするまでの時間も長く、一般細菌では3日間、抗酸菌では2か月あまりかかります。その間、細菌が適切に発育できるように、ふ卵器培養温度や発育時間の管理も日々行っております。（前かをり技師）

○細胞診係

細胞診係は、異型細胞の有無を検査している部署です。異型細胞を認めた場合には、細胞診専門医により細胞診断が行われます。細胞診係では、ご提出いただいたあらゆる材料を性状に応じて検体処理し、良好な染色標本での判定に努めています。外部精度管理への参加、判定基準統一のための同一標本による鏡検を行いスクリーナー間でのチェック、また、定期的な細胞診専門医とのディスカッションなどにより精度向上を目指すとともに、組織型の判定や原発巣の推定を行うため、各種学会・研修会へ積極的に参加し、最新情報を判定に活かせるよう取り組んでおります。

（矢口裕子技師）



*当検査センター細胞診係は、日本臨床細胞学会の一定基準を満たし、認定施設として登録されています。（上写真参照）
～現在、平成31年3月末までの更新を手続き中～

当検査センターでは、毎年年度計画を立て各検査部門において積極的に学会や研修会へ参加しております。特に形態部門では、広島県臨床検査技師会の分野員などの活動も行っております。このような活動を活かして、これからも常に臨床を意識し、迅速かつ正確な検査結果をお返しできるよう職員一丸となり努めてまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。